

第2回（仮称）練馬区学びと文化の推進プラン策定懇談会会議録

- 1 開催日時 平成27年1月19日(月)午後6時から8時10分
- 2 開催場所 練馬区役所5階庁議室
- 3 出席委員 齊藤委員 座長、池田委員、大橋委員、柴辻委員、川井委員、堀川委員、高橋委員、佐藤委員、橋本委員、古谷委員、
- 4 欠席委員 漆澤委員 副座長、田中委員、金井委員、中村委員
- 5 公開可否 原則公開（傍聴人0人）
- 6 配布資料 資料1 (仮称)区政運営の新しいビジョン(素案)
資料2 第1回策定懇談会でいただいた意見
資料3-1 プランの考え方と取組む事業（イベント）
- 懇談会における議論のたたき台 -
資料3-2 (仮称)練馬区学びと文化の推進プランネーミング案
資料4 今後の策定スケジュールについて
参考資料 練馬区の人口動態等
- 7 議事等 (1) (仮称)練馬区学びと文化の推進プランの策定にあたって
(2) 今後の懇談会開催予定について
(3) その他

会議等の要旨

(1) 開会

地域文化部長あいさつ

第一回会議では、たくさんの文化と学びについてのご意見等をいただいた。本日用意した資料は、前回いただいたご意見や現在、区政が直面している課題等を、一定の考え方としてまとめたものである。様々な観点からご意見をいただきたい。

また、新区長のもと区政運営の新しいビジョン素案を作成した。このビジョンの内容を踏まえて、(仮称)練馬区学びと文化の推進プランを策定していきたい。限られた時間の中であるが、素案作りに向け忌憚のない幅広い意見をお願いします。

(2) (仮称)練馬区学びと文化の推進プランの策定にあたって

座長 懇談会の第二回である。次の第三回が最終的なご意見をいただく機会となる。本日は、前回いただいた意見をもとに議論のたたき台を区が用意した。皆様が日頃、地域において肌で感じられている部分について、様々なご意見をいただきたい。(仮称)学びと文化の推進プラン策定の関係資料が提出されているので、事務局の説明をお願いします。

(事務局の説明 資料1～資料3-2 省略)

座長 先ず、本日の進め方についてお語りしたい。始めに、資料1(仮称)区政運営の新しいビジョン(素案)について、ご意見等を伺い、その後、資料2と

資料3-1および資料3-2のプラン作成に係る部分をご議論いただくこと
としたいがどうか。(了承の声)

事務局資料説明

座長 資料1(仮称)区政運営の新しいビジョン(素案)について、ご意見等はあるか。

委員 大泉の東映アニメーションギャラリーは様々なアニメの展示が素晴らしいが、現在改築中である。(株)東映だけで進めるのではなく、区や地域社会が何らかの形でかかわるようにしてほしい。地域にはセル画の工房も点在し、(株)東映に協力してきている。地域の中の(株)東映になるよう働きかけしてほしい。

委員 新しい社屋への改築は2年半から3年かかる。アニメーションギャラリーが併設されると聞いている。現建物は築60年近くになる。海外からの観光客も多く、無料の観光ルートになっており一定の存在感がある。改築中の2年から3年間の具体的プランはない。区からのバックアップがないと人件費もかかり、一企業だけで動くことは難しい。

座長 アニメ関連事業は計画にも盛り込まれているが、産業的側面からはどうか。

事務局 現在、産業振興分野の計画をまとめており、アニメも盛り込むと聞いている。(仮称)学びと文化の推進プランにおいても、文化の面でアニメを磨き上げたいと考えている。練馬大根の調査・研究報告と同じようにきちんと調査・研究を行い、記録を残し、きちんと歴史的な評価などをして進みたい。また、本年4月に大泉学園駅再開発ビルオープンに合わせ、ペDESTリアンデッキができる。区に関わりのある鉄腕アトムやうる星やつらの彫刻が設置される。(株)東映の改築整備中に練馬アニメゲートの整備が進む。文化の面でも貢献していくべきではないかと考えている。

委員 やたらとジブリが目立つが、宮崎駿は(株)東映育ちである。よいものをつくれればチャンスが広がると思う。区もバックアップしてよいものをつくってほしい。

座長 (株)東映に限らず、アニメ関連会社も多い。そういう面からも文化面でバックアップして、取組んでいただければよいと思う。教育連携でもさらに活動を充実し、広く認知されるようになればよい。

委員 アニメだけでなく、振興キネマから(株)東映に遷ったという映像文化のさきがけも記載してほしい。(株)東映のスター2人が亡くなり、急遽(株)東映が関係ビデオ販売を開始した。東映撮影所では、最近中で何をやっているのかわからない。出演者の来店がなく寂しいとの声をレストラン経営者から聞く。地域と一体となった雰囲気づくりを進めてほしい。

座長 区内には、(株)東映や映像分野で世界で一位、二位を争う日大芸術学部がある。また、シネコンが都心以外で2か所あるのは全国でも珍しい。この環境の活用度は高い。映像文化以外に意見はあるか。

委員 としまえんに撮影所があったことも付け加えてほしい。

委員 18項目の戦略プランには、どこを見ても文化の記載が出てこない。学びは少し入っているが、文化芸術は出てこない。何か理由があるのか。大変寂

しい。

事務局 戦略計画16「風を感じながら巡るみどりのまち」の中に、区内の地域資源の掘り起しや磨き上げにより、地域の魅力を高めるため、文化を磨いていくことを記載している。5年間の取組みとして区内の文化芸術関連施設、大学と連携した施策の実施 みどりの特徴と文化芸術の強みを活かしたイベントの実施等を記載している。施策の体系の「4魅力あるまち」の46に「文化・生涯学習・スポーツの振興」に記載があり、(仮称)学びと文化の推進プランの上位計画と位置付けている。

委員 はっきりと戦略計画の中に「文化」と記載してもらわないとわかりにくい。高齢化社会に向かって自分のできるものが文化に関わってくる。文化芸術をどういう位置づけにするのか。言葉から始まる。ぜひ入れていただきたい。文化芸術の底辺、裾野を広げるのはそういうことと考えている。

事務局 現在素案の区民意見等を募集している。いただいた意見を担当所管に伝える。

委員 子どもたちにも地域めぐりの学習を体験させた方がよい。アイデンティティは、子どものときに形成される。近くに大泉くびき公園があり、カブトムシ、クワガタなどがいたが、この前公園に行ったら開発で更地になっていた。近辺では縄文遺跡の発掘を都が調査している。大人がまち歩きで歩くのもよいが、遺跡発掘現場は子どもたちの学習の場としてよい機会である。

委員 その点は大事である。この地域にこのようなものがあると自分の地域を認識できるようにする機会にする。子どもの一生がそこで決まることが多々ある。そういう機会をぜひ設けてもらいたい。沖縄では自分の地域を認識する取組みをしている。

委員 ふるさと文化館では子ども版サポーターを募集し、手掛け始めたと聞いている。

座長 子どもたちのためには地盤づくりがまずある。方法論として大人の形でスタートし、子どもたちへ伸ばせるように、提案していただくとうよい。アニメとの教育連携に5～6年携わったが、練馬区でプリキュアが作られていることを知らない子どもが多かったが、情報も広がるようになってきた。計画案は5年間であるが、長期的に裾野が広がるようにしてほしい。

委員 ビジョン素案に文化が盛り込まれないのは残念である。文化と高齢化をからめる必要があると思う。敬老館などの高齢者施設と文化芸術が連携し、何かを実施するような形で、文化が積極的にアプローチしていくことも考える必要があると思う。

委員 施設委託化が進んで地域集会所も民間委託になったが、委託事業者と区が一緒になって運営していかないと利用上よくない状況が生まれている。もう1点は、子どもが泥んこになって遊べる場がなく、遊びの中から何かを学ぶ工夫も少なくなっていることである。遊具も制限されている。緑も多く、屋敷林も落ち葉がなくとてもきれいだが、幅をもって遊べるところがほしいと感じている。

座長 戦略計画の中に子ども関連の記載があるようだが説明はできるか。

事務局 今回の議論は戦略計画 15 みどりあふれるまちづくりに関連する。その中で、子どもたちが楽しめる体験型事業の拡大を記載している。カブトムシの森や子どもの森事業、古民家や屋敷林保存とホテル育成などの体験型環境学習ができる仮称・中里郷土の森緑地など文化との回遊性を高め、風を感じながらとなるづくりとしている。地域の魅力を高め、磨き上げ、連携を深めることで薪能・コンサートにつなげている。区長からは計画づくりにあたり構造に惑わされず、文化をもっと柔軟に発想せよと言われている。

座長 練馬文化センターの活動の面では、そういった点はどうか。

委員 協会事業とふるさと文化館指定管理事業のコラボレーションや来年度は美術館が指定管理施設となり、リンクや事業の幅が広がる。いろいろなことができる。誰がどういう形で進めていくか、スタッフの体制整備が課題である。ふるさと文化館では藤沢周平やちばてつやなど文化人パネルの解説をサポーターが開始した。ジュニアサポーターも4人だが動き出した。周囲の人々も参加しながら事業の輪を広げていきたい。それには、バックグラウンドの整理、しがらみの解消、予算などの担保が必要である。計画上に大きな柱を打出してもらえれば力を入れやすい。文化を含めたありとあらゆる分野を区が認知しているという形ができると71万人区民の住みやすい練馬の魅力につながっていく。また、施設に留まることなく地域にでていくとの考えでアウトリーチ活動を仕掛けている。協会の行動計画と区のプランと整合性を確保しつつ良いものとしていきたい。

委員 新宿区は文化人のパンフレットを作っている。文化人紹介を区報で掲載すると広がっていくと思う。

委員 石神井松の風文化公園の分室を訪問した人しか展示内容を知らない。練馬の文化人・先人が、子どもひとり一人にパンフレットなどの形で渡ればもっと練馬区の誇り育成につながる。大事なものは郷土の歴史である。郷土への愛や誇りが高まる。副読本的なものがあれば違ってくるのではないか。事業企画にぜひ載せてほしい。

座長 生涯学習の観点から区がどのように記載していくか大切なことである。情報発信のあり方として、ICTや区報、区外からももっと知っていただく方法論が考えられないかということである。

事務局 副読本は作成にあたり郷土史分野などの記載に連携している。ビジョン素案へいただいた意見は担当所管課にきちんと伝えたい。

座長 次の資料3-1および資料3-2に入る。5年間の取組事業も含めて施設分野の話題から議論に入りたい。練馬文化センターはどうか。

委員 練馬文化センターで年間30~40本の公演を企画している。また、日本大学芸術学部との連携により映画会を開催しているが、ハードについて大変厳しい評価になっている。32年目になるが、建設当初、大ホールを1486席に客席を増やしたことにより2階3階は階段スロープが急で高齢者の利用は厳しい。また、小ホールは、強風の日、客席にヒューと音が轟き、鑑賞の妨げである。何とかならないのかとの区民意見をいただいている。改築は積極的に進めてほしい。稼働率の高い施設であり、改築期間中の対応は困るこ

とになる。メンテナンスでカバーしながらとなるが、既存施設を維持するための区のバックボーン整備をお願いしたい。

委員 生涯学習センターも建設当初はよかったが、今は大変使い勝手が悪い。今後の生涯学習は個室対応ではないと感じている。一緒になって作品をつくる、音楽を活用するなど個室仕様ではなく、大広間として使いたいときがある。建物の構造上、限られてしまい貸館公演もそういうことができないが、悪い中でも、工夫して使い勝手が向上するよう取り組んでほしい。

座長 向山庭園の生涯学習センターへの取込みが新規事業に記載されているが、そのあたりはどうか。

委員 向山庭園では、華道・茶道などが利用し、そことの連携は取れているが、発表する場としては個室に区切られていて利用に苦労している。今すぐは改築されたばかりで改修は難しい。なかなか良い知恵は浮かばない。

委員 美術館の前庭に親しめるように動物彫刻を配置し、入口も脇から入る構造を正面から入る形に変更した工事が進んでいる。

それとは違うが、練馬駅北口の開発は中途半端であると思う。練馬駅は、練馬区の顔である。北口はそのような考えで整備してほしい。他から来た人にすごいなあと思われるようにしてほしい。

4月にオープンした新しいビルも収まりが悪い。文化センター改築に絡めて、北口全体の設計を丁寧にしてほしい。外国の都市ではどこにもきれいな顔がある。パブリックアートへの意識を高め、もう少し知恵を出し合ってデザインに取り組んでほしい。駅北口で平成つつじ公園とつつじ祭りだけやっているようでは展望がない。

座長 改築等により、大きく環境が変化していくことになる。財源の問題もある。すぐにはとまらないが意見を出し合っていきたい。

委員 計画期間の5年間は、時代が変わるための重要な5年間である。練馬文化センターの改築は、練馬の顔をどうするかの大きなシンボルになる。プランをしっかりと作り、その周辺を強化する考えを入れてもらいたい。もっとしっかりと書き込んでほしい。そういう練馬に住み続けたい。

委員 北口のココネリを建設するとき、もう少し工夫が必要だったというのが区民の声である。ホールが多目的に使えるようになっていたら、使い勝手がよくなっていた。展示用の吊り金具などは整備されていない。ふるさと文化館や生涯学習センターはお願いしたのでついた。パネルは用意してあるが、吊り金具などそういう設備がされていれば、伝統工芸にも、音楽にも、展示にも使える。練馬の中心地なので、これからつくるときはそういう設備がほしい。南口の整備は難しいので北口整備を工夫してほしい。

また、生涯学習センターの容積率を上げる検討や利用者アンケートをとることなど、生涯学習センター改築にあたっては子どもから高齢者まで使えるように区民の意見をよく聞いてほしい。

委員 武蔵野音大と区立小中学校のパイプができ、教員になるための実習のような形で、学校の吹奏楽のお手伝いをし、大会でグランプリ獲得するなどの成果が上がっている。また、2年間大学校舎の改築で迷惑をかけるが、音楽コ

ンサートによる地元とのつながりが深まっている。プラス面の拍車をかけてほしい。

座長 日本大学藝術学部も小竹の森音楽祭に関わらせていただいている。地元とのかかわりは大学の使命と考えている。池袋から西武線に乗ると、江古田駅に3大学、練馬駅に文化センター、中村橋に美術館、大泉学園駅に(株)東映アニメーションがあり、大きな特徴である。江古田駅は練馬区の入り口として、強みがある。宣伝し、それぞれ地域の魅力を認識してもらい機能させていく方向につながっていけばよい。

委員 江古田駅の3大学の昇降口も、西口：武蔵野音大、東口：日本大学藝術学部、南口：武蔵大となっており特徴がある。

委員 前回の懇談会を含め、伝統文化をどうするかが抜けているのではないか。お囃子団体が現在16団体活動している。祭りなどいろいろなところで組み合わされば子どもたちも励みになるのではないか。

事務局 伝統文化のお囃子をどのように活用するについては、歴史文化基本構想に視点として入れていく。また、みどりと文化芸術の連携の取組みとして「新能・コンサート(野村万作演出)」実施時に地元のお囃子や新体操・ダンス等をコラボレーションで組込むことも、合わせて考えている。

委員 お囃子団体の活動単位は小さく、学校との連携は非常に難しいと感じる。

座長 地域活動等をしていない男性高齢者の区民が約7割との調査結果があるが、この点についてはいかがか。

委員 地域性もある。退職で地域復帰したとき、会社の役職経験意識のままで地域での目線になることが難しいようだ。女性はコミュニティにうまく溶け込んでいる。町会でも呼びかけているが、男性は自分の考えが取り入れられないと参加意欲が無くなる傾向がある。上から目線では、溶け込めることが難しいと思う。

委員 私の地域の町会は、1年交代としており、50代、60代の若手が参加し始めておもしろい雰囲気になってきている。防災などで小中学生まで巻き込むことがよい。

委員 男性が地域復帰しやすい仕組みや考え方を進めていく必要がある。会社にいる時から学ぶ仕組みがあるとよいのではないか。

委員 劇場公演の観客は、80%が女性で、60~70代女性が中心である。アンケートでは、女性6対男性4になる。施策づくりは無駄であると思う。ふるさと文化館の五味レコードコンサートの聴講は、全員男性で石神井図書館利用者が横滑りしてきているように思う。男性は地域活動が面倒で、その結果、行き場のない人が多い。地域活動よりも働きたい人が多い。会社づくり支援が問題解決になるように思う。

委員 男性の知恵も地域に役立つことが多いと思う。男性の知恵を活かすような場の提供をし、働ける場所づくりをする。何とか引き出せる場の提供が必要であると思う。

座長 社会を暮らしやすいようにしていくため、男性がこのようであると不安であるのでお聞きした。地域社会への復帰に男性のボランティアでもよいので

拠点設置などの策があれば、文化芸術の参加型事業の色あいも変わってくると思う。

委員 具体的に男性のボランティア展開を幅広くやるためには今の問題をどう解決するかにより局面が変わると思う。そういう形をどうまとめ、運営していくかで練馬区が今後5年間どのように動いていくかが決まっていくと思う。考えがまとまらないが、ボランティアで新しいことができる場、動ける場がどれだけあるかである。

事務局 4月からスタートする練馬Enカレッジ事業の中に、地域活動等への参加の取組みをする。社会教育・生涯学習が個人や仲間で楽しむものから、文化に昇華させ地域貢献に結び付けるという考え方で盛り込んでいる。練馬Enカレッジには、知識・経験を活かすため福祉分野等も講座内容に取り込んで5年間の取組みを進めたいと考えている。今いただいた意見でこういう方向性は間違っていないと心強くした。

座長 自宅マンションの問題解決で、男同士の飲み会を設けたところ、運営がよい方向に行っている。ざっくばらんな集いなどを検討してもらえればよいと思う。

座長 次の資料3-2 ネーミング案に移りたい。目指す方向性の標語についてはいかがか。

委員 女性の発言の場、活動の場を広げるなどの言葉があってもよい。女性はおしゃべり好きだが、本音を言っている。許容する文化を男性は自覚する必要がある。

委員 標語の「学びは一生 文化は永遠 感性豊かなまち ねりま」と「学ぶを楽しみ 文化を肌で感じるまち ねりま」の言葉をミックスした形が望ましい。

委員 「学びは一生 文化は永遠 感性豊かなまち ねりま」の「感性豊かなまち」は弱い。ここにもう少し強力な言葉があればよい。アクションに結びつくような言葉がよい。

座長 「輝く未来のまち」のような能動的な例ということになる。次に2目指すべき方向性の標語についてはいかがか。

委員 「学ぶ楽しさ再発見！」はよい言葉である。

座長 生涯学習的視点が強すぎると思う。もっと学びの楽しさが伝わる方が私はよい。

委員 もう1行追加の言葉があればよくなるのではないか。

委員 グループで子どもたちが遊ぶことが少なくなっている。つながりが希薄になっている。心と心のつながりが求められている。もっとプランの中に強調されてもよいのではないか。

委員 標語に世代をつなぐイメージが反映されるとよい。

座長 学ぶ楽しさ、みんなで発見などはどうか。みんなで考え、みんなで発想のメッセージに行きつくのではないか。要約すれば文化芸術コミュニティ練馬などとなる。

座長 一番難しいのは3番目の学びと文化芸術を支える環境整備である。こちら

について意見はどうか。

事務局 文化センターの改築に関わってくる。先行例として、上田市がホールと美術館を合築し、上田市サントミュージゼを建設した。1,500席と500席ホールと美術館で、約120億円の建設費がかかっている。

標語にこだわるのは、先日も、標語の重要さを研修で受けた。作家の新田次郎が気象庁時代に、富士山頂レーダー設置経費を確保するため「台風の最後の砦 富士山レーダー」の訴求力のある標語で予算獲得した経緯などを引用した。プランも同じように考えたい。本来なら行政が考える「学びの成果を活かす」などがわかりやすいが、これと比べると区民には訴求力がない。

委員 ネーミングは大切である。それを聞いただけでわくわくするようなものがよい。

事務局 例えば、「学びと文化の永遠計画」などの工夫があってもよい。

座長 楽しさが環境整備につながるような、明るい未来が近いように感じる言葉がよい。おもちゃ箱のような遊び場所をつくる感覚があるとよい。楽しい場所のキーワードが必要である。

委員 資料2の標語の例示は、環境整備が出すぎている。

委員 パブリックアートに目を向けてほしい。まちなみの美学の視点を入れてほしい。タバコの吸い殻が落ちている限り、まちはきれいにならない。

座長 いただいた意見を活かして標語作成を作成してほしい。

2 今後の懇談会開催予定について

(第3回の会議日程について、2月25日(水) 午後6時からの開催予定について各委員の了承を得た。)

座長 3の議題に入る。その他について何かあるか。

委員 今日欠席もあり、女性の意見が少ない。いまさら仕方がないが、いろいろな世代の代表が出てこないと感じに偏りがでる。住宅都市の中で、文化を推進するのであれば、子育て世代の意見も大事だと思うが少し欠落しているように感じる。このまま行ってしまうとこの世代の要望等を満たすことはできないと思う。

委員 委員には青少年委員会関係者もいるが本日は欠席されている。残念。その声を聴きたいところだった。世代的にメンバーとしては網羅されていると思う。

座長 副座長を含め、今日は女性の出席率が悪かった。

事務局 欠席の委員には今日のご意見等を次回懇談会の前にお伝えし、意見が素案に反映できるようにしたい。また、プランの策定期間は、資料の記載は5月だが、6月策定と考えている。

座長 その他何かあるか。特になければ、本日用意した議題は終了した。次回は、2月25日(水)である。以上で第2回策定懇談を終了する。ご協力ありがとうございました。

(閉会)